

列島いんふおめーしょん

列島 information

2月号の主な話題&ふるさとだより

北海道 日ハムと大学が「農畜」で連携

秋 田 シイタケ栽培を融資で支援

福 島 無人ロボットが宅配便をお届け？

茨城 水戸が維新 150 周年のロゴ

千 葉 地元の間伐材を使った「仕切り具」

東京「花の銀座」はホテルも上品に！

新 潟 ロッテ経営のスキーリゾート開業

長野 ハナマルキが100周年のロゴ

愛知 中部空港MICE誘致に日仏連合

福井 塩辛さ抑えた「へしこ」開発

滋 賀 関ヶ原に大型風力発電所が出現？

大 阪 マリオットホテルが心齋橋に進出

鳥 取 星空を妨げると5万円の罰金

愛 媛 新フェリー「あけぼの丸」就航

高知 「スター・ウォーズ」と大旗が共演

宮崎 小型機にも対応した搭乗橋を導入



北海道

日ハムと大学が「農畜」で連携

帯広 12月5日、日本ハム（本社・大阪市北区。末澤壽一社長）は、帯広畜産大学（本部・同市。奥田潔字長）と畜産活性化に関する包括連携協定を締結。国際的に活躍できる獣医師・畜産技術者の育成や、畜産技術振興、研究成果の社会活用推進、共同研究、インターンシップの実施、人材交流、「食」の北海道ブランド創出などで連携。生産から加工・製造までを養成する「農場から食卓までの実務実習プログラム」も実施、実践教育を強化する。

青森

県南地方の日本酒用米をブランド化

青森県 12月25日、県産業技術センターは酒造りに適した酒米を「吟烏帽子（ぎんえぼし）」と名づけブランド化、品種登録出願を公表。同センターの農林総合研究所（本部・黒石市）が開発。主として県南地方に向けて作付けされる。同地方の伝統舞踊「えんぶり」（烏帽子を被った

舞い）にちなんだ命名で、著名な酒米「出羽の里」（山形）と寒さに強い「青系155号」との交配種。なお、栽培・醸造試験にも参画した県内3つの酒蔵、八戸酒造（本社・八戸市。駒井庄三郎社長、桃川（本社・おいらせ町。上田友司代表取締役）、鳩正宗（本社・十和田市・稲本修明代表取締役）が、同品種を使った日本酒を2018年に造る予定。

岩手

1000年前の鐘を3Dで復元

北上市 1月5日、同市立博物館で復元された1000年以上昔の鐘がお披露目、「カンカン」と心地よい音色を披露した。1960年代に市内の大竹廃寺跡で出土した錆だらけの鐘を、鋳物業の岩手製鉄（本社・同市。佐藤満義社長）が3D技術を駆使し約1カ月間を費やして復元、同博物館に寄贈したもの。高さ26cm、口径21cm、重さは約16kg。

秋田

シイタケ栽培を融資で支援

由利本荘市 12月22日、原本シイ

タケ栽培の岩城町農園（本社・同市。前川正敏社長）は、農業と太陽光発電事業の並立を目指す営農型発電（ソーラーシェアリング）の試みに際し、北都銀行（本店・秋田市。斉藤永吉頭取）と日本政策金融公庫（本店・千代田区。細川興一総裁）秋田支店、秋田県信用保証協会（本部・秋田市。関根浩一会長）から、計5800万円の融資を受けた。なお、原本シイタケ栽培による営農型発電は県内初。借り受けた休耕田に、ビニールハウス（原本に菌を植え付けるため）や原本保管用の「人工ぼた場」を設置、さらにこれらの上に設置台を構築し太陽光パネル約700枚を配置、年間発電量20万kw時を目指す。

電力は東北電力（本社・仙台市青葉区。原田宏哉社長）にほぼ総て売却、年間売電収入は約650万円を見込んでいる。

山形

葬祭場と合体した美術館オープン

新庄市 12月27日、葬祭業のスマザワ（本社・同市。沼沢正則社長）は、全国でも極めて珍しい家族葬式

場「エヴァやすらぎ」（1月下旬オープン）併設の「エヴァアモア美術館」を市内に開館。敷地約8・9ha、施設は1階建て、延べ床面積約780㎡（うち美術館、式場共に約110㎡）会食室やセミナールームも併設。館内では平山郁夫や東山魁夷の作品のリトグラフなど沼沢社長所蔵の絵画約30点を展示、原則友引の日に公開。

入場料は100円で、東日本大震災の震災孤児支援金に全額寄付。

宮城

飛鳥時代の軍事施設を発掘

東松島市 12月14日、市教育委員会は市内の赤井遺跡（鳥時代末期、平安時代初め）が大和朝廷の役所跡だけではなく、地方豪族・蝦夷（えみし）の反乱に備えた軍事施設だったことを決定づける城柵跡を発見したと発表。

「牡鹿柵（おしかのさく）」との記載が続日本書紀にあることから、同遺跡がこれではないかとの推測があったが、これまで物的証拠がなかったため、疑問視する向きも少なかった。



南相馬市の無人配送実証試験で使
用された配送ロボット(ローソン)

福島

無人ロボットが宅配便をお届け？

南相馬市 12月21日、日本郵便(本
社・千代田区・横山邦男社長)は、
ローソン(本社・品川区・竹増貞信
社長)などと共同で、同市の市スポ
ーツセンターで台車型の無人配送ロ
ボットによる宅配受け渡しの実証試
験を実施。郵便局やローソンのコン
ビニ店舗、配送先の住宅を巡り荷物
の受け渡しを繰り返して問題点・改
良点を探るのが狙い。なお同市は「ロ
ボットのまち」をアピール、市内に
設けられた「福島ロボットテストフ
ールド」を核に企業誘致にも熱心。

栃木

市内5大学が創造都市目指し連携

宇都宮市 市内5大学が同市を

「創造都市」へと変貌させるべくス
クラム。1月25日には第1回のシン
ポジウムを開催予定で、今年度から
本格的に始動する。宇都宮大学(石
田朋靖学長)、宇都宮共和大学(須
賀英之学長)、帝京大学(沖永佳史
学長・理事長) 宇都宮キャンパス、
作新学院大学(渡邊弘学長)、文星
芸術大学(上野憲示学長)の5大学
の他、トヨタ自動車のグループ英語
湯で住宅分譲のトヨタウッドホーム
(本社・同市。中津正修社長)、宇
都宮商工会議所(関口快流会頭)、
宇都宮市商店街連盟、NPO法人な
ども参画。各大学の人文科学系、芸
術・文科系、福祉系、経済・経営学
系、農学系、理工学系、医療技術系
の7学部を結集、同市の魅力と情報
発信、魅力アップを目指して人口減
少、そして各大学の「定員割れ」に
備えるのが狙い。今年春には市内に
「宇都宮市創造都市研究センター」
を開設、地域活性化や人材交流の拠
点とする。

茨城

水戸が維新150周年のロゴ

水戸市 12月20日、同市は201



水戸市明治維新150周年記
念事業ロゴマーク(水戸市)

8年に明治維新150周年を迎える
ことから、これを祝した記念事業で
使う独自のロゴマークを披露。有名
な水戸徳川家の家紋「三葉葵」をあ
しらひ、上半分は市紋章の青、下半
分は「日の丸」を意味する紅を配色
した。

今後、各種イベントやPR活動に
大々的に使用、観光客誘致にもひと
役買うようだ。

群馬

温泉街が空き家を使った開業支援

みなかみ町 11月25日、同町にあ
る著名な水上温泉の活性化を図るた
め、30〜50代の地元経営者らが結成
した「水上温泉リノベーションま
ちづくり実行委員会」(渡辺靖彦委員
長)は、温泉街に散在する空き家を

流用した新規開業のサポート活動を
開始、空き家物件の内覧会を開催し
た。

受け入れ業種は事務所、小売業
サービス業などで、原則として家賃
は月3万円と破格。この他、同町商
工会への加入により、経営指導員に
よる経営指導や低利融資の相談・申
請、HP作成などの各種支援を無料
で受けられる。

すでに第1弾として、2月にビー
ル工房が開業する模様だ。

千葉

地元の間伐材を使った「仕切り具」

松戸市 木製ドア製造の山一建具
(本社・同市。二村淳彦社長)は、
県内で産出される銘木「サンブスギ」
の間伐材・被害材を使った仕切り具
「パーティションポール」を今年か
ら量産、2020年の東京五輪を商
機に年1000本を目指す。ポール
の重量は約3・8kgで既存の金属製
の約半分と軽いのが特徴で、サンブ
スギのブランド化にひと役買う他、
持続可能社会や森林保全への貢献な
ど、まさに「一石三鳥」のアイテム
として注目されている。

埼玉

地元の名武將にちなんだ日本酒

伊奈町 12月13日、同市は観光客誘致の目玉となる日本酒セット「伊奈氏三代」の発売を発表。戦国・江戸時代に活躍した地元の武將・伊奈備前守忠次にあやかった企画で、同町名の由来でもある。忠次、忠政(嫡男)、忠治(次子)の3代にちなみ、純米酒、生酒、「おりがらみ」の3種を用意。神龜酒造(本社・同県蓮田市)が協力し醸造。地元産米「彩のかがやき」も使用。町おこしに挑む「忠次プロジェクト推進協議会」が企画、限定3000セットで価格は3000円(税別)。

東京

「花の銀座」はホテルも上品に!

中央区 1月1日、同区は銀座地区に新規着工するホテルなど宿泊施設の条件を厳格化する改正条例を施行。カプセルホテルなど割安施設の規制が狙いで、世界的な「ギンザ」のブランドと品格を維持、外国人観光客が安心して利用できるホテルを

目指す。「ゆとり」と「地域との調和」が大原則で、宿泊室の広さは定員1人で9㎡以上、同2人で13㎡以上、ロビー部分は1階か道路に面する場所であること、などの条件をクリアしなければ、新規は認められない。

神奈川

病院バスを高齢者無料開放へ

横浜市 12月27日、同市と私立の横浜総合病院(本部・同市青葉区・平元周院長)は、同病院が運営する送迎バスを高齢者向けの地域貢献バスとしても利用する協定を締結。1月29日から、あざみの駅やすすき野地区周辺で実証試験を実施予定。定員12人で、70歳以上の青葉区在住の者で、自分で乗り降り可能であることが利用者の条件。なお、ルート内なら乗り降りは自由。

新潟

ロッテ経営のスキーリゾート開業

妙高市 12月16日、韓国・ホテルロッテグループは、同市に一大スキーリゾート「ロッテアライリゾート」を開業。2006年に経営破綻した



「ロッテアライリゾート」(ホテルアンドリゾート上越妙高)

「小さな村総合研究所」(本部・同村・小村幸司代表理事)は、「たばやま村民タクシー(ソントク)」の運営を開始。県内初の試みで、過疎地域での「足」を確保する目玉として国が推進する有償運送制度の一環でもある。

所定の講習を受けたボランティアが自家用車を使い運用。3月末までにドライバー登録者は40人に達する模様。

静岡

静岡側の世界遺産センター開館

富士宮市 12月23日、同市に「県富士山世界遺産センター」が開館。富士山の世界遺産登録を受け、その調査・研究の成果を披露するのが目的。すでに山梨県側では2017年6月にひと足早く同名の施設がオープンしており、今後両者は情報共有やイベント、PRなどで連携を深めて行く模様。

同施設は敷地面積約7000㎡、展示棟、北棟、西棟から構成、特に木格子(県産木材使用)で覆われた逆円錐形の展示棟が特徴的。観覧料は一般300円。

山梨

県内初の「村タク」始動

丹波山村 12月26日、NPO法人



ハナマルキの創業100周年ロゴ(同社)

長野

ハナマルキが100周年のロゴ

伊那市 1月4日、味噌製造のハナマルキ(本社・同市。花岡俊夫社長)は、今年創業100周年を迎えることを祝した記念ロゴを発表。コンセプトは「たぐさんのH」で、社名の「Hanamaruki」の他、「Hundred」(100周年)や、「Hybrid」(伝統をハイブリッドさせて進化)、「Hungry」(消費者の「食」を満たす)、「Honest」(正直)、「Humor」(食って楽し)、「Head」(考える)、「Home」(家庭の味)

の意味合いを込めている。

岐阜

ローカル線が新形態で再出発

大垣市 1月1日、これまで近畿日本鉄道(本社・大阪市天王寺区。和田林道宜社長)が保有・運営してきた養老線(桑名・大垣・揖斐、約58km)が、「養老鉄道」(本社・大垣市。都司尚社長)として独立。同市など沿線7市町が参画する「一般社団法人養老線管理機構」が発足。近鉄は同機構に養老線の鉄道施設や車両などを無償で譲渡し、これを同機構が養老鉄道に無償で貸与するという新方式を採用。事業構造の大幅変更と経費抑制、独自の集客戦略で早期の黒字化を目指す。

愛知

中部空港MICE誘致に日仏連合

常滑市 12月21日、県は中部国際空港(セントレア)の隣接地に2019年秋開業予定の国際展示場のMICE(会議、報奨旅行、国際会議展示会)誘致を念頭とした運営主体に、前田建設工業(本社・千代田区。

前田操治社長)とMICEで世界的に名高い仏・GLイベントの2社連合に優先交渉権を与えたと発表。2035年3月末までの約15年契約で、権利料は約8億8000万円。2社連合は近く共同出資の特別目的会社(SPC)を旗揚げ。なお開業後5年間は赤字を県が補填する。

富山

空港・白馬スキー場でバス運行

富山県 1月4日、同県は、近年外国人観光客に人気の白馬スキー場エリア(長野県)と富山空港を結ぶバス路線「富山・白馬スノーライナー」の運行実証試験を開始。富山地方鉄道(本社・富山市。辻川徹社長)が平日、新富観光サービス(本社・同市。永守徹社長)が土・日をそれぞれ運行。ルートは富山駅・富山空港・魚津インターチェンジ・白馬で、行程は約3時間半、1日1往復。運賃は大人4000円。

石川

産学協同で航空機技術を結集

石川県 12月18日、金沢工業大学

(本部・同市。大澤敏孝)や、石川県産業創出支援機構(ISCIO。本部・同市。谷本正憲理事長)同県知事、津田駒工業(本社・同市。高納伸宏社長)など県内の航空・宇宙関連企業22社を結集。材料調達から生産、検査まで一気通貫させ、地場産業としても競争力を高める試み、県航空機産業クラスター「AC ISHIKAWA」を発足。同大学は工学部機械工学科の森本喜隆教授の研究室が核となり、非破壊検査技術や工作機械活用技術などで支援。

福井

塩辛さ抑えた「へしこ」開発

美浜町 12月20日、サバを糠漬けた福井の伝統発酵食品「へしこ」の製造・販売で有名な千鳥苑(本社・同町。橋本富夫代表)は、減塩のへしこを開発・販売。開発には福井大学(本部・福井市。眞弓光文学長)大学院工学研究科の末信一朗教授(応用微生物学)の研究グループが協力。「塩辛さ」がトレードマークだが、アルコールと酒粕を使い脱塩に成功、塩分濃度は従来の約半分、4%ほどに減じた。

三 重

高齢者と地球環に優しい小型バス

志摩市 1月9日、同市は高齢者向けの小型電動バスの実証試験を開始。バスは群馬大学（本部・前橋市・平塚浩士学長）とベンチャー企業のシンクトウギヤザー（本社・群馬県桐生市。宗村正弘社長）が共同開発した「eCOM-8（低速電動コミュニケーションビークル）」で、全長約4・4m、全幅約1・9m、8輪で時速19km、10人が搭乗可能。天井に太陽光パネルを敷き詰め、家庭用電源で充電できる点の特徴。同市はこれと同社から借り受け1カ月間試験を行う。市内浜島地区を中心に運行予定。

奈 良

法隆寺門前に文化体験型ホテル

奈良市 12月5日、宿坊創生をメーンに掲げるホテル開発事業の和空プロジェクト（本社・大阪市北区。能澤克己社長）は、世界遺産・法隆寺の門前に、文化体験型の門前宿「和空法隆寺」を2019年春開業する

と発表。同社が推進する「宿坊創生プロジェクト」の一環で、大阪市天王寺区の寺町に2017年春にオープンした宿坊型ホテル（和空下寺町）の、いわば第2弾。積水ハウス（本社・大阪市北区。和田勇会長兼CEO）と提携、積水側が建物の設計・施工、和空側が管理運営を行なう。建物は本館（敷地面積約2300㎡）・別館（同約2080㎡）の二段構えて、いずれも鉄骨造/地上2階建、総客室数は約60室（宿泊数約140人）、大広間、大浴場も併設。宿泊料は1泊2食で1万6000円（税別）を予定。茶道・華道・香道や、能、雅楽、講談など各

種の本格的な文化体験アクティビティを用意するのがウリ。

滋 賀

関ヶ原に大型風力発電所が出現？

米原市 11月14・12月15日、再生可能エネルギー事業のジャパン・リニューアブル・エナジー（本社・港区。竹内一弘社長）が計画する、現在同市と岐阜県関ヶ原町の県境周辺に広がる山林での大型風力発電施設建設の事業計画段階環境配慮書が、米原市、関ヶ原町両庁舎などで縦覧された。それによると概要は敷地面積約164・4ha、全高約118・150m、回転直径約80・108mの大型風力発電を計7基設置、出力最大2万3800kwで、2021年度稼働を目指す。ただし同市は国の天然記念物「イヌワシ」の生息地でもあり、「バードストライク」対策など、今後計画変更が迫られる可能性もあるという。

大 阪

マリオットホテルが心斎橋に進出

社・愛知県刈谷市。有馬浩二社長）は、京大発ベンチャーのFLOSFIA（本社・京都市西京区。人羅俊実社長）に新株引受により出資、合わせて両社は次世代パワー半導体材料・コランダム構造酸化ガリウム（Ga₂O₃）の車載に関する共同研究を実施すると発表。同物質は京大の藤田静雄教授（FLOSFIAとは共同研究の関係）が世界初の単結晶合成に成功、既存のシリコン/シリコンカーバイド系に比べエネルギー損失が低いため、次世代電気自動車航続距離アップが期待される。

大阪市 1月10日、世界屈指のホテル・グループ、米マリオット・インターナショナル（本社・米国メリーランド州。アーン・ソレンセン社長兼CEO）は、積水ハウス（本社・同市北区。和田勇会長兼CEO）と

共同で、2012年2月に大阪・心斎橋に同ホテルの高級デザイナーズホテル・ブランド「W（ダブルユー）ホテル」（世界に52軒展開）を開業すると発表。名称は「W OSAK



「和空法隆寺」イメージ（和空プロジェクト）

京 都

デンソーが京大発ベンチャーに出資

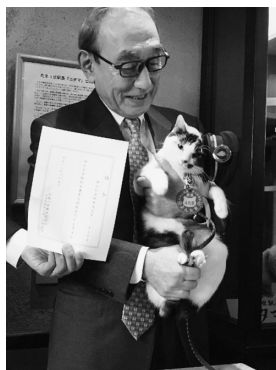
京都市 1月4日、デンソー（本

A」で、「W」ブランドとしては日本初上陸。敷地面積約2500㎡、地上27階、客室数337室（予定）で、レストラン、ボールルーム、プールの併設。安藤忠雄氏が設計顧問として参画。

和歌山

猫駅長に「よんたま」が昇格！

和歌山 1月5日、和歌山電鐵（本社・同市。小嶋光信社長）は、同鉄道伊太祈曽駅（同市）でこれまで駅長見習いだった三毛猫「よんたま」（メス、1歳8カ月）を駅長へと昇格、小嶋社長自ら辞令を交付。



小嶋社長から直々に駅長就任の辞令を受ける「よんたま」（和歌山電鐵）

兵庫

県初のロータリー型交差点

神戸市 12月26日、神戸・ポート

アイランド（同市中央区）に県内初のロータリー型交差点（ラウンドアバウト）が新設された。2014年の改正道路交通法による規制緩和に伴うもので、欧米、特に英国で発達しているが日本ではまだ馴染みが薄い。基本的に信号が不要な「省エネ交差点」で、ロータリー部分に進入する車両は減速せざるを得ないため、衝突事故の低減が見込まれること、加えて基本的に車両は停止しないため、交通渋滞の緩和や省エネ、排ガス抑制にもつながるなど、いいことづくめ。整備費用は約2000万円。

岡山

三菱自がRVR生産を移管

倉敷市 12月20日、三菱自動車（本社・港区。益子修CEO）は、コンパクトSUV「RVR」の生産を、従来の愛知県岡崎製作所から同県水島製作所に移管したと発表。同日開催された記念セレモニーには益子CEOも出席、燃費不正問題で低迷する業績の回復を同社社員に呼びかけた。同社は今後SUVの生産を強化する方針で、水島製作所でも約1割の生産能力増強を行なう計画。

広島

JR尾道駅が1世紀ぶりに一新

尾道市 12月21日、JR西日本（本社・大阪市北区。来島達夫社長）は、124年ぶりに行なう尾道駅（同市）の駅舎改修工事の概要を発表。

新駅舎は鉄骨2階建て、1階にはレンタサイクルが利用できるカフェや、コンビニ、大衆酒場、2階には眺望デッキ、宿泊施設や喫茶店、物販店舗を置く。2019年春に完成予定。

鳥取

珍しい「星空保全条例」が施行

鳥取県 12月21日、同県議会はサードライイトやレーザー光線の上空照射を規制する「星空保全条例」を可決。星空景観保護を目指した条例は全国初。「星取り県」のスローガンを掲げ県内の全市町村から天の川が観測可能と謳って観光PRを推進するだけに、天体観測に適した環境作りが不可欠。同条例は罰則つきで違反者には最大5万円の過料を科す。早ければ4月から施行予定。

島根

第一稀元素化学が新棟増設

江津市 12月26日、自動車排ガス浄化触媒メーカーの第一稀元素化学工業（本社・大阪市住之江区。井上剛社長）は、ジルコニウム化合物製品の生産体制を強化するため、同社江津工場（同市）の新棟増設に関する覚書を同県と締結。敷地面積約1万1600㎡、鉄骨造りの3階建てで、2019年3月に完成予定。

山口

シーモール下関がリニューアル

下関市 12月5日、下関商業開発（本社・同市。吉田実社長）は、JR下関駅前の商業施設「シーモール下関」の改装計画の概要を発表。10年ぶりのリニューアルで、同県初進出となるファッションブランド「H&M」の誘致やフードコート「KITCHEN448」の新設がウリ。近隣での大型商業施設進出の影響で減少した客足を取り戻すのが狙いで、リニューアル後の売り上げ90億円を見込む。3月21日にオープン予定。

香 川

オリーブの新品種2種が誕生

小豆島町 12月25日、同県は出願中のオリーブの新品種「香オリ3号」と「香オリ5号」が農水省に受理されたと発表。

オリーブの新品種登録は国内初で、既存と比べ大敵の炭疽病に強くポリフェノール含有も多いのが特徴。近年台頭する九州産と差別化を図り、収穫量で全国一を維持するのが狙い。同省で数年間審査された後、正式に品種登録される予定。

愛 媛

新フェリー「あけぼの丸」就航

八幡浜市 12月18日、宇和島運輸（本社・同市。松岡宏社長）は、八幡浜港～白杵港航路に新フェリー「あけぼの丸」を投入。

建造費は約30億円、全長約121m、定員546人。同航路での新フェリー導入は19年ぶり。荒天時の横揺れを抑えるスタビライザー機能の他、電気自動車の充電スポット、リクライニングシートなども搭載。



新フェリー「あけぼの丸」（宇和島運輸）

船内デザインは「TIMELESS VOYAGE」のコンセプトの下、モノトーン基調の落ち着いた雰囲気設計。今後、物流に加え増加する九州～四国間の観光客などの取り込みを狙う。

徳 島

東京に「宿泊型」のアンテナ店

徳島県 同県は2月4日、浜倉区に日本初の「オーベルジュ型」アンテナショップ「TurnTable」を開業する。

「オーベルジュ」とはフランス語で「宿」のことで、宿泊設備を伴う

高 知

レストランを指す。同店舗は5階建てで、1、2階にカフェと、吉野川流域の農地が作った野菜や同河口付近で採れるワカメ、ハモ、アワビなどの海産物を使ってレストランや県産品の販売コーナーも置く。また2～5階にはリーズナブルな宿泊施設を用意、利用者に県の魅力を伝え、「ロコミ」効果を狙う。

「スター・ウォーズ」と大旗が共演

香南市 12月12日、キャンプ場・公園運営などDMO事業を行なう香北ふるさとみらい（本社・同市。池



「スター・ウォーズ」とコラボした大旗「フラフ」（竜馬学園）

福 岡

「スペースワールド」が閉園

北九州市 12月31日、同市八幡東区のテーマパーク「スペースワールド」が最終営業日を迎え27年の歴史に幕を下ろした。当日は約3000人が開演前から列を作って閉園を惜しんだ。同テーマパークは八幡製鉄所の遊休地に1990年開園。全盛期だった1997年度には216万人が来場。

佐 賀

展望送迎デッキを無料化

佐賀市 12月23日、九州佐賀国際



九州佐賀国際空港の展望送迎デッキからの遠望(佐賀ターミナルビル)

電力小売事業に参入した。住宅などの屋根に同社所有の京セラ製太陽光パネルを貸与・設置、初期投資がゼロになると共に、電気料金が圧縮されるのが特徴。同社はこれを機に再生可能エネルギー事業を加速させる目論見だ。

大分

JR日豊線が運転を再開

臼杵市 12月18日、JR九州(本社・福岡市博多区・青柳俊彦社長)は、9月の台風18号の影響で一部不通だったJR日豊線の運行を全線で再開。同日、佐伯、津久見、臼杵各駅では記念式典を開催。ただし、同社が実施する来春ダイヤ改正での同線減便や駅の一部無人化計画に関して、複数自治体が中止を求めるなど課題も残す。

長崎

ハウステンボスが電気小売に参入

佐世保市 12月27日、大型リゾート施設経営のハウステンボス(本社・同市。澤田秀雄社長)は、一般家庭向けに新電気プランの受付を開始。

熊本

「くまモン」が海外でも使える!?

熊本県 1月4日、同県はPRキャラクター「くまモン」のイラストを国内に限らず、海外企業の有償利用を解禁すると発表。

世界規模で普及させ同県の知名度アップにつなげるのが狙い。同県では今後、東京の大手広告代理店と提携、イラスト利用を希望する海外企業から商品価格の約5〜7%程度を手数料として徴収する計画。

なお、海外企業からはすでに300社近く使用希望が寄せられていると言う。

宮崎

小型機にも対応した搭乗橋を導入

宮崎市 12月26日、宮崎空港ビル(本社・同市。長濱保廣社長)は、座席数100席以下の小型機に直接装着できる搭乗橋の利用を宮崎空港で開始、小型機対応搭乗橋の導入は国内初。

従来は、搭乗客が一度外に出て徒歩で飛行機まで向かう必要があったが、これにより、大型機と同様に空港ビルから直接乗り込むことが可能となった。

三菱重工交通機器エンジニアリング(本社・広島県三原市。坂本一秀社長)が5年がかりで開発、障害となっていた傾斜角度基準をクリアした。

鹿児島

加治屋町に歴史ロード

鹿児島市 1月9日、県と同市は歴史ロード「維新ドラマの道」の完成を記念したオープニングセレモニーを開催。AR(拡張現実)などを駆使したモニュメントを7基設置、専用のアプリをダウンロードスマホを近づけると、薩摩の偉人にちなんだ歴史ドラマなどが閲覧可能。ルートは同市加治屋町の高麗橋〜甲突橋の約290mで、整備費用は約1億6000万円。

沖縄

ゆいレールの利用者が2億人超

那覇市 12月21日、同県は沖縄本島のモノレール「ゆいレール」における本年度の1日当たり平均利用者数が、11月末時点で4万9321人となり、過去最高を更新する見込みだと発表。10月には2003年8月の開通から約14年2カ月で通算利用者数2億人を達成するなど、10月を除き総ての月で前年同月の平均利用者数を上回った。